

2012. 10. 20

名ホールの響き
第3回

ウィーン・コンツェルトハウス
(生誕100年名指揮者たち ショルティ)

プログラム

世界の有名なホールで演奏された録音を聴きながら、その響きの妙を楽しんでいただくシリーズ「名ホールの響き」の第3回目、今回はウィーン・コンツェルトハウスを取り上げます。

座席数1865席のコンツェルトハウスは1913年に完成し、ウィーン・フィルがフランチャイズのムジークフェラインザールに対し、ウィーン交響楽団のフランチャイズとして有名で、音響の素晴らしさでも世界有数のホールです。最前列で聴いても全く違和感のないバランス感覚の良さは、驚嘆に値します(実体験)。

今日は生誕100年の名指揮者たちのひとり、**ゲオルク・ショルティ**(1912~1997)がウィーン・フィルを率いてコンツェルトハウスで演奏した録音も合わせてお聴きいただけます。ショルティはハンガリーのブダペスト生まれ。1969年から1991年まで音楽監督をつとめたシカゴ交響楽団とのコンビで世界的評価を得ました。シカゴ響との優れた演奏はもちろんありましたが、むしろウィーン・フィルやヨーロッパのオーケストラの方が、角のとれた、柔軟で音楽性の強い演奏が多かったように思います。

リヒャルト・シュトラウスの祝典前奏曲は1913年10月19日、コンツェルトハウス柿落としのために委嘱され初演された作品で、壮麗なオルガンの前奏で始まり、壮大なスケール感を持ったクライマックスで幕を閉じる、この曲名にふさわしい力作です。ウィーン響との演奏では、ブラームスのフリードリヒ・ヘルダーリンの詩に基づく混声合唱と管弦楽のための「運命の歌」をホルスト・シュタインの指揮で。ファリャを得意とするデ・ブルゴスの指揮で「恋は魔術師」と「三角帽子」をお聴きいただけます。“良く鳴るホール”と言っても良いコンツェルトハウスの魅力を少しでも感じ取っていただければと思います。

クスタフ・マーラー (1860~1911):

歌曲集“さすらう若人の歌”

1. 彼女の婚礼の日には 2. 朝の野辺を歩けば 4. 彼女のふたつの青い瞳が

フランツ・シューベルト (1797~1828):

交響曲第8番ハ長調“ザ・クレート”D.944 ~ 第1楽章、第2楽章から、第4楽章

ヘルマン・プライ(バリトン)

ゲオルク・ショルティ指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

(1981.6.21 ウィーン・コンツェルトハウス大ホールでのLive)

*** 休憩 ***

ヨハネス・ブラームス (1833~1897):

運命の歌op.54

ホルスト・シュタイン指揮ウィーン交響楽団/ウィーン国立歌劇場合唱団

(1979.6.17 ウィーン・コンツェルトハウス大ホールでのLive)

マヌエル・デ・ファリャ (1876~1946):

舞踊音楽“恋は魔術師”から

火祭りの踊り、終曲

舞踊音楽“三角帽子”第1組曲から・第2組曲

マーヴェル・ペレルスティン(メゾ・ソプラノ)

ラファエル・フリユーベック・デ・ブルゴス指揮ウィーン交響楽団

(1995.2.9 ウィーン・コンツェルトハウス大ホールでのLive)

リヒャルト・シュトラウス (1864~1949):

祝典前奏曲op.61

クリスティアン・ティーレマン指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

(2003.10.19 ウィーン・コンツェルトハウス大ホールでのLive)